

佐渡総合高校 人権ニュース（教職員・生徒・保護者 配布）

【第7号】令和6年12月19日 人権教育・同和教育・男女共同参画委員会発行

1. 人権講演会を開催しました 11/7 6 限時

委員会から「部落差別と、こんにちの人権課題」と題して講演を行いました。裁判になっているインターネットを利用した部落差別問題を題材に、戸籍不正取得を許さないための佐渡市の本人通知制度等を通して、身の回りの差別に、どう立ち向かうか、本ニュースの下端に記した「困っている友達の側に立ち、『困っている』と声を出せる佐渡総合高校に！」を自分のこととして考えられるようお話をしました。生徒感想を載せます。差別を、自分事としてしっかり考えてくれています。

事前登録することで、知らんぷりせずに向き合えると思いました/1人で抱え込まず誰かに頼れるような場所があると安心するので良いと思います/1人ひとりが知識を身につけてゆくことが大切だと感じた/困っている友達に何ができるかでなく、困っていると声の出せる場をつくろうという考えが凄く良い(2年)/困っている時に困っている事を言い出せるような学校が良い(1年)

本人通知制度については、過半数の生徒が賛同し、事前登録したいとする生徒も多くいました。

2. 人権研修会本年度分が終了

PTA と共催の人権講演会、全 11 回の最終回を終えました。ご参加ありがとうございました。

【人権研修まとめノート】

Ⅰ 越佐にんげん学校⑦9/20【ウチこれ絶対おかしいって思うねん:徳永信一(「全人教」専門委員)】

・学校は集団を育てる所。集団＝つながり＝空気感

＜自分で考える力＝周囲とつながる力＝自分を知る力＞を育てる←そのために自分を語り合う

Ⅱ 越佐にんげん学校⑧9/27【アイヌ差別:松本ますみ:室蘭工業大学教授)】

・北海道民 510 万人中、アイヌ民族は約 2 万人。蝦夷地から北海道に改名し(1869)日本の植民地となった→アイヌの「足るを知る」文化は無視され、文明開化/産業革命へと進む…鮭文化は、「一括採捕」の水産資源保護法により復活不可能になっている。差別解消とともに、アイヌ文化の尊重も大きな課題である。

Ⅲ 越佐にんげん学校⑨10/11【差別されない権利の実現を:上野佑:「部落探訪」新潟訴訟弁護士)】

・伝統的な考え方:平等とは差別を解消する事

↓ 差別に関する考え方の進化 (差別する確信犯の意識を拘束できない)

・新しい考え方:差別の救済のため、新たに「差別されない権利」を活用する

Ⅳ 越佐にんげん学校⑩10/22【女性支援法と扶養義務:西澤真知:ウイメンズサポートセンターにいがた代表】

・DV(配偶者への暴力)は、子どもへの暴力と同じで、子どもを被害者/加害者に育ててしまう恐れがある。

・選択的夫婦別姓…日本では 96%が夫の姓を名乗っている現在は女性の困難度が高い。

・2024 年施行の女性支援法は、経験ある相談員が不足している。学校では外部につないで欲しい。

【相談機関…児童相談所、NPO ウイメンズサポートセンター 025-201-4556、】

Ⅴ 特別講演 10/29【インターネットにおける人権侵害:宮前千雅子:関西大学人権問題研究室】

・日本では人権教育が同和教育としてスタートしたため、同和教育は大切にしていける必要がある。

・多数派の「私」が、(少数派に対する)差別解消に関わって、一緒に考える社会をつくろう。

困っている友達の側に立ち、「困っている」と声を出せる佐渡総合高校に！